

RIWAC 管理番号	RJO0026
調査タイトル	卒業生の仕事とくらしに関する調査
論文／雑誌名	1「卒業生のライフスタイルと就労」 2「卒業生の仕事とくらしに関する調査－卒業生のくらし」『家政経済学論叢』第 41 号
著者	a 安田三江子 b 浅古照美
掲載ページ	a:pp.3-31. b:pp.33-59.
発行年	2005.05
出版社	日本女子大学家政経済学会

ISSN 0287-0967

# 家政経済学論叢

第 41 号

## 卷頭言

教養教育の意義をあらためて考える

## 論文

「卒業生のライフスタイルと就労」

「卒業生の仕事とくらしに関する調査－卒業生のくらし－」

## 学生研究

地域通貨のある暮らし

－地域通貨導入の現場から－

2004年度生活経済専攻修士論文（目次・概要）

2004年度家政経済学科卒業論文（概要）

会員だより

日本女子大学家政経済学会

2005年5月

# 家政経済学論叢 第41号目次

## 卷頭言

- 教養教育の意義をあらためて考える ..... 高木郁朗 ..... 1

## 論文

- 「卒業生のライフスタイルと就労 ..... 安田三江子 ..... 3

「卒業生の仕事とくらしに関する調査—卒業生のくらし—」

..... 浅古照美 ..... 33

## 学生研究

### 地域通貨のある暮らし

- 地域通貨導入の現場から— ..... 吉川美咲 ..... 61

- 2004年度生活経済専攻修士論文（目次・概要） ..... 85

- 2004年度家政経済学科卒業論文（概要） ..... 93

## 会員だより

- 卒業後37年をふりかえって ..... 川島美保 ..... 145

- 豊かな生活を探して ..... 加藤千香子 ..... 146

- 開かれたキャンパスと学生の未来 ..... 小倉祥子 ..... 147

- 思いを伝えたい ..... 大島直子 ..... 148

## その他

2004年度家政経済学科だより	149
卒業生の就職状況	151
日本女子大学家政経済学会会則	154
『家政経済学論叢』編集・投稿規程、「会員だより」投稿規程	156
執筆者紹介	158
編集後記	159

## 論 文

# 卒業生のライフスタイルと就労

安 田 三江子

## はじめに

2004年9月に、家政経済学科40周年を記念し、卒業生の仕事とくらしに関する調査が行われました。調査の企画、集計、分析は、安田三江子（18回生）、浅古照美（生活経済専攻修士課程修了）が、担当させていただきました。ここに、調査結果の主要部分の概要を報告いたします。

なお、すべてのデータの集計が終わり、調査報告書が完成した段階で、卒業生の方々へ研究のためのデータ公開をいたします。ただ、この場合には、プライバシーへの配慮を最優先するため、回生をまとめる、現在在住の県を削除するなど、いくつかのデータについては、加工をさせていただく場合もありますので、ご了承いただくようお願い申し上げます。

## 調査の概要

### 1. 送付数と回答率

2004年9月に、1回生から37回生まで、2328名の方に合計で送付を行った。回収期間は9月下旬から10月一杯までとやや長めに設定をした。

まず、293名分が宛て先不明で返送された。2名分の無効回答もあった。そのため、回答率は22.1%である。なお、返送されなくとも、実家や転居前の住所へ配送され、卒業生の方に直接届いていないケースも相当するあると推測できる（調査回収終了後、数名の方から、調査票の不達のお知らせをいただいた）。

## 2. 回答者の状況

514人の回答者の方の回生別内訳は、図表1のとおりである。

回生が上になるにつれて、回答者の割合が少なくなることはなく、熱心に回答してくださったことが伺われる。そのため、各回生が、全体に占める割合はほぼ均一であり、全体の数字は、卒業生の平均像であるといえる。

多くの卒業生にとり、回生による分類は、一般的ではない。そのため、分析をすすめるにあたって、図表1に記したように、高校卒業後、現役で入学し、4年間で卒業をした年齢を、仮定し、併用する。

さらに今後の研究のために、全数の主要な状況については掲載する。しかしながら、40周年調査では回答者の数が少ないため、必要に応じて本稿では、回生をまとめながら、議論をする。その場合、回生ではなく、上記の仮定した年齢を用い、年齢階層で、分析を進めていくことにする。

図表1 回生別回答者数

回生	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年齢	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
度数	15	16	17	10	13	9	6	18	19	13
行%	2.9%	3.1%	3.3%	1.9%	2.5%	1.8%	1.2%	3.5%	3.7%	2.5%
回生	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
年齢	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40
度数	12	24	17	19	14	14	12	17	18	6
行%	2.3%	4.7%	3.3%	3.7%	2.7%	2.7%	2.3%	3.3%	3.5%	1.2%
回生	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
年齢	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30
度数	8	10	8	11	11	19	15	12	21	7
行%	1.6%	1.9%	1.6%	2.1%	2.1%	3.7%	2.9%	2.3%	4.1%	1.4%
回生	31	32	33	34	35	36	37		NA	合計
年齢	29	28	27	26	25	24	23			
度数	17	20	11	14	16	11	7		7	514
行%	3.3%	3.9%	2.1%	2.7%	3.1%	2.1%	1.4%		1.4%	100.0%

## I ライフスタイルと家族構成の変化

### 1. 結婚について

まず、卒業生のライフスタイルはどのようにになっているのだろうか。結婚の状況から考察してみよう。

最初に、結婚の変化について、結婚経験の有無と初婚の年齢からみよう。別表1が、回生別に示した結果である。

結婚経験については、とくに40代前半の18回生あたりから、結婚経験のない方が増加していることがわかる。年齢階層別にみると、結婚経験のない方は、50代では後半で1.4%、前半では、7.7%、また、40代後半でも7.0%であるが、40代前半から増加しはじめ、11.9%となり、30代後半16.7%、前半36.5%、20代後半65.4%、前半100%となる（表は略）。

また、初婚の年齢も高くなっている。50代前半の7回生までは、24歳、25歳が、平均年齢であるが、9回生から40代半ばの15回生までは、（8回生は40歳で結婚した方がいるため、やや平均が押し上げられているといえる）26歳台で推移し、40代前半の16回生から19回生まで、ほぼ、27歳前後の推移している。

30代後半の21回生で30歳となるが、それより若い層では、当然のことながら、年齢が下がるにつれ、平均年齢は下がってくる。29回生までは、28歳程度が平均である。35回生（仮定年齢は25歳であるが）では、27歳が平均となっているが、これは、27歳で結婚した方1名がおられるためである。

初婚の平均年齢の上昇の背景として、結婚年齢が少しづつ高くなっていることや、高い年齢で結婚する方の出現があげられる。50代始めの方ぐらいから初婚の最高年齢は、上がってきており、8回生、9回生では、40歳で初婚の方や、12回生では45歳で初婚の方がおられる。これは、50代半ばの7回生以上にはみられない現象である。

また、初婚の平均年齢の上昇は、若い層で結婚する方の減少も要因となっている。1回生から6回生までの、初婚の年齢では、22歳が最も若かった。大学を卒業と同時に結婚をした方や、卒業時には既婚であった方もいらしたのであろう。40周年調査に回答を寄せていだいた方の中には、14回生を例外として、この年

齢を答える方はいなかった。

しかし、初婚の年齢の最小値は、25歳位で上昇は止まっている。例外的な27歳（20回生、35回生）を除くと、23歳から26歳で推移をしており、これ以上の上昇はみられない。結婚は、経験の有無を含めて変化しており、その年齢も高い年齢にシフトしつつ多様化しているといえよう。

## 2. 子どもの状況

子どもの有無と子どもの数について示した表が別表2である。

本調査では、結婚経験の回答がなく、出産経験を答えた方はいなかったため、結婚の状況が大きく反映している。そのため、30代以下のシングルの方の増加は、子どものいない方の増加を示している。また、結婚していても、子どものない方が30台前半ではめだつようになってきていたる。

これをわかりやすくするために、年齢階層別に結婚経験がある方の子どもの有無について述べる（表は略）。年齢の高い層からみると、子どものいる方は50代後半（91.4%）、50代前半（90.0%）、40代後半（92.5%）、40代前半（91.5%）と9割以上に達している。しかし、それより若い層の30代では後半で72.5%、前半で63.8%と下がり、20代後半では25.9%である。

30代後半の年齢層の方々が、これから出産をし、40代と同じように、既婚者の9割が、子どもをもつ時代が続くのか、否か、この年齢の今後の動向が注目される。

また、子どもがいたにしても、40代半ばの回生では、子どもの数の平均は2人を超えるが、それ以下の回生では、30代後半の回生であっても、平均は2人に届かなくなっている。

少子化は、未婚による子どもをもたない人の増大と、既婚で子どもをもたない人の増加や、もっても、数が少ないとことなどにより、進んでいるといわれる。

本学科卒業生においても、現在の段階で未婚者の増加と子どもの数の減少は確認できる。既婚で子どもをもたない方の増加については、まだ、結論は出せない。現在の30代後半における今後の出産の可能性は大きいからである。しかし、この年齢の現在の状況でいえば、これも、また、あてはまるといえる。

結婚の年齢をも含めた多様化の状況はライフスタイルの多様化を意味すると思われる。これからすると、ライフスタイルは多様化は、子どもについても実現され、そのひとつとして、既婚で子どもをもたない方も増加していくと予測できる。

### 3. 家族構成

それでは、以上の状況を受けて、家族構成はどのようにになっているのだろうか。

別表3は、家族構成について各回生ごとにみたものである。さらに、ここでは、わかりやすくするため、年齢階層別に、まとめた図表2も併用して考察する。

年齢が上がるにつれ、結婚経験のある方が増加し、子どものいる方も増加する様子がわかる。しかし、前述の結果を受けて、その上昇の仕方は、決して早くない。とくに30代前半では、シングルの割合は高く、35.1%である。

シングルの割合は30代後半から減少し、40歳前半から50代前半にかけての17回生から7回生では、既婚者が9割、核家族、三世帯を含め子どものいる方が、ほぼ8割程度となっている。年齢階層別にみても、40代後半以降のシングルの方は1割を切る。

既婚者の中では、核家族が主流であり、とくに40代では、6割以上に達している。三世帯同居の割合も、40代までは2割弱である（三世帯同居は東京、埼玉、千葉、神奈川以外の県に住む方が多い。三世帯同居の60.0%が、これらの県の在住である。表は略）。

一方、50歳半ばから後半の1回生から6回生では、自分と夫のみや自分と夫と親とする割合が増加する。これを受けて、50代では、夫婦のみやそれに親が加わった世帯が多い。とくに、50代後半ではほぼ3割となる。

この年齢階層の9割で子どもがおり、1回生から6回生では長子の大多数が23歳以上（35歳が最も年齢が高い）で、末子にしても、同様に年齢が高くなっている、15歳以下とする方はわずか（最も年齢が低くて13歳）である（表は略）。

家政経済学科が40周年を迎えることは、還暦を迎える卒業生の出現を意味する。そして、卒業生も、子育てが終わるという新しいライフステージに入りつつあるといえる。50代の卒業生の中には、子どもが独立し、夫婦が主体となる家族が増加しているのだろう。だが、家族のなかに、子どもの配偶者や孫を回答した

方はいなかった。これらの方の今後の家族の動向が注目される。

とはいっても、ライフスタイルは一様ではない。ひとり親家庭に分類される方も6人（1.2%）いらっしゃった。これらを含めた11人（2.8%）の方が、結婚経験はあるものの、現在、家族構成に配偶者を回答されなかった。回答忘れ、回答拒否の方もおられるであろうが、この中には、配偶者と離婚や死別をされた方も含まれるであろう。詳細な部分までみると、卒業生の家族構成はさまざまである。

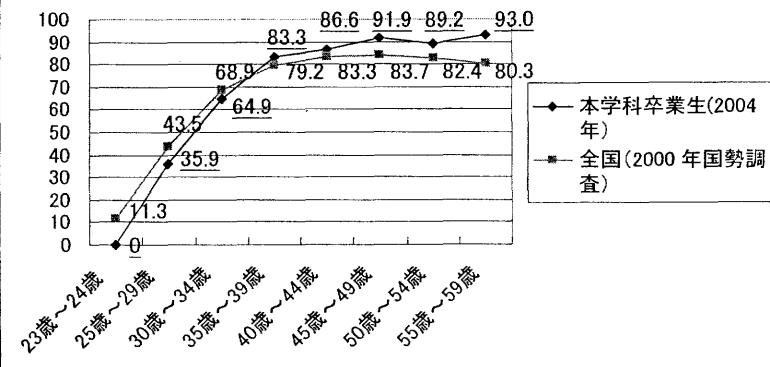
図表2 年令階層別家族状況

	シングル		夫婦		核家族		三世帯		ひとり親		無回答		合計	
	度数	行%	度数	行%	度数	行%	度数	行%	度数	行%	度数	行%	度数	行%
23～24歳	18	100.0%											18	100.0%
25～29歳	50	64.1%	21	26.9%	7	9.0%							78	100.0%
30～34歳	26	35.1%	17	23.0%	27	36.5%	4	5.4%					74	100.0%
35～39歳	8	16.7%	10	20.8%	23	47.9%	7	14.6%					48	100.0%
40～44歳	8	11.9%	5	7.5%	42	62.7%	11	16.4%	1	1.5%			67	100.0%
45～49歳	6	7.0%	8	9.3%	55	64.0%	16	18.6%	1	1.2%			86	100.0%
50～54歳	5	7.7%	11	16.9%	35	53.8%	12	18.5%	1	1.5%	1	1.5%	65	100.0%
55～59歳	1	1.4%	21	29.6%	36	50.7%	9	12.7%	3	4.2%	1	1.4%	71	100.0%
無回答	3	42.9%	1	14.3%	2	28.6%	1	14.3%			7	100.0%		
表合計	125	24.3%	94	18.3%	227	44.2%	60	11.7%	6	1.2%	2	0.4%	514	100.0%

注) シングル、夫婦、ひとり親は親との同居を含む

なお、国勢調査を参考にし、有配偶について、全国の状況と比較をすると、本学科卒業生は、20代と30代で、やや低く、一方、40代以上の年齢階層では、やや高くなっている。

図表3 有配偶の状況（全国との比較）



#### 4. 20周年、30周年調査との比較から

図表4は、20周年調査、30周年調査と比較をしたものである。前述した変化が、この表でも確認される。

20周年、30周年では、卒業後3年がたつと、2割が結婚しているが、40周年調査の3年目の回答者の中では6.3%にすぎない。4、5年目の35、34回生で4割であるが、これは33回生が63.6%と既婚者の割合は高かったためである。32回生は35.0%にすぎない、結婚して6年目では、6割と、30周年の調査と並ぶ。しかし、10年目の29回生でも、6割台であり、増加の傾向はみられない。

また、20周年調査時点で、卒業して1、2年目だった15、16回生は、10年を経て、8割が既婚に、20年を経た40周年調査では、回答者全員が既婚となっていた。

だが、40周年調査では、10年を経て、25回生、22回生では、9割をこえるものの、26～27、24～23回生では、6割台であり、18回生においては、76.5%と10年を経ても、まったく同じ割合という結果である。もちろん、回答者の方が少なかったので、データのゆれもあり、今後の調査に、その子細な分析は譲らなければならぬ。

一方、30周年調査では、20周年調査で、卒業して、10年目だった7回生は、その時点で、既婚率が9割であったため、「晩婚化」が強調されていた。

しかし、40周年調査では前述の分析と、合わせて、考えると、結婚は高い年齢にシフトをするとともに、指摘できることは、未婚を継続する方も増加しており、結婚をしない生き方の選択も確立しつつあることも、推測される。結婚は、人生の選択肢のひとつにすぎなくなりつつあるのかもしれない。

そして、また、30代のライフスタイルは40代以上とは異なる可能性も予感できる。現在50代の回生の、結婚し、出産し、やがては、子どもが成人していくというライフスタイルを主流とする生き方は、40代はともかく、30代以下の回生においては、異なる可能性はありうるといえよう。

図表4 有配偶の状況（過去の調査との比較）

卒業後	20周年調査		30周年調査		40周年調査	
1. 2年目	15. 16回生	0.0%	26. 27回生	0.0%	37. 36回生	0.0%
3年目	14回生	20.0%	25回生	20.0%	35回生	6.3%
4. 5年目	12. 13回生	66.7%	24. 23回生	37.7%	34. 33回生	40.4%
6年目	11回生	80.0%	22回生	63.9%	32回生	35.0%
10年目	7回生	91.3%	18回生	76.5%	28回生	66.7%

通年の変化	20周年調査	30周年調査	40周年調査
15. 16回生	0.0%	80.2%	100.0%
14回生	20.0%	87.0%	89.5%
12. 13回生	66.7%	90.6%	90.2%
11回生	80.0%	87.9%	100.0%
7回生	91.3%	100.0%	100.0%
26. 27回生		0.0%	64.7%
25回生		20.0%	90.9%
24. 23回生		37.7%	68.4%
22回生		63.9%	100.0%
18回生		76.5%	76.5%

## II. 就業の状況

卒業生の家族生活を中心にライフスタイルは変化しつつあるが、有業、無業を含めた就業における変化については、どうであろうか。本章では就業状況の変化、および家庭と就業の状況について、考察する。

### 1. 職業及び正社員経験

まず、職業経験からみよう。現在では、ほぼ全員が、職業経験をもつようになってきている。職業経験のない方は、1.2%にすぎない。50代後半4名、50代前半1名、40代後半1名と年齢の高い回生の計6名のみである。20周年調査(8.2%)から、30周年調査(4.6%)にかけても、この傾向は確認されたが、今回も、また、確認された。

また、正社員・職員の経験は、年齢が若くなるにつれて増加する。回生によりばらつきがあるが、50代では、後半がほぼ6割、前半が7割と低かったが、40代

の回生では、後半が8割、前半で、9割以上となり、全員、正社員の経験があるという回生もみられはじめる。30代も大多数の回生が正社員の経験をもっており、30代（93.9%）、40代の回生（91.3%）では、正社員経験の割合は9割を超す。しかしながら、20代の後半から、正社員経験のない方が増加し、20代全体の正社員経験は88.5%と下がる（表は略）。

最近、若年者における、良好な雇用機会の減少が、大きな社会問題として指摘されている。本学科卒業生の正社員の経験者の減少も、この問題の影響を大きく受けている可能性がある。

## 2. 現在の就業の状況

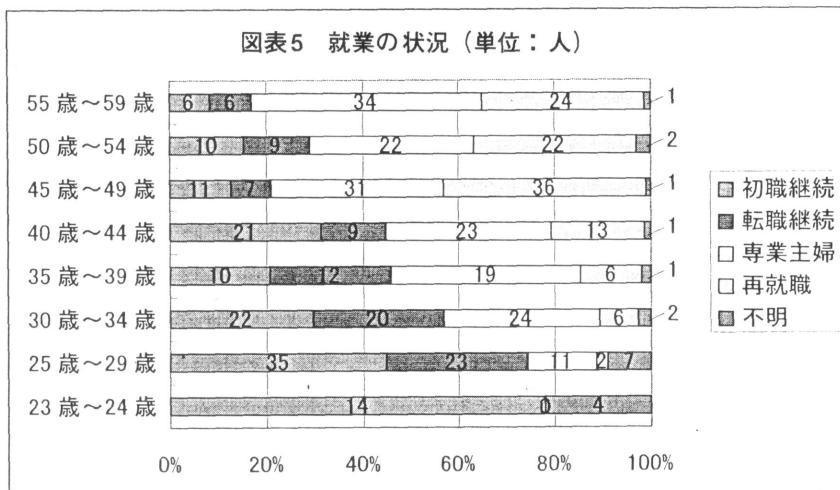
次に、回答者全員の方の現在の就業の状況について、初職継続、転職継続、専業主婦、再就職、不明と、5つのタイプにわけて概観をしてみる。これについては、別表4に回生ごとに掲載してある。

まず、語句の説明をすると、初職継続および転職継続は、大学卒業後始めて就職（初職）をし、そのまま、または、転職をして、中断することなく、継続しているタイプ、専業主婦は文字通り主婦に専業している方、再就職は、結婚または出産による、空白期間（専業主婦）を経て、再び、働きだしたタイプ、不明とは、卒業後の就職経験（初職）はあるが、それ以降、職をもたず、専業主婦でもないというタイプをさす。なお、求職中の方は、全体で4名と少なく、それらのうち、さらに、現在無職で求職をしている方は1名と、少なかった。残り3名の方は、専業主婦や、職をもちながら、求職活動であり、自ら、「さしつけられた状況で求職をしていない」としていた。そのため、求職中という分類をたてず、無職で求職中の方は、不明に分類し、それ以外の方は現在の状態で分類をした。

別表4からみると、若い回生ほど、職業を継続している方が多い。34回生から、専業主婦が現れ、さらに、36回生から、再就職があらわれる。回生により大きなばらつきがあるため、年齢階層ごとの集計も併記する。

20代前半では、初職継続が8割近くに達しているが、20代後半になると、転職継続が増加し、初職継続と含めて6割強になる。30代前半では、半数以上の方が、職業を継続しているが、30代後半、40代前半で半数を切り、40代後半では2割程

度となってしまう（図表5）。



一方、専業主婦は20代後半から増えはじめ、30代後半ではほぼ4割に達するが、50代前半では、3割台である。これは再就職が増加し始めたからである。再就職は30代前半で、1割、後半で2割、40代前半で、4割になる。だが、50代は、他の回生とは、やや異なり、専業主婦が多い。とくに、50代後半では、半数程度に達している。なお、不明は、20代でみられる。

また、初職継続、転職継続、再就職における各回生の雇用形態は図表6のとおりである。初職継続では、正社員・正職員が圧倒的多数をしめ、全体の90%である。若い回生で契約社員や嘱託社員、および、年齢が上の回生で、自営業がわずかにみられる（表は略）。

転職継続では全体で、正社員の割合は61.4%に下がり、非正社員が増加する。契約社員13.6%と嘱託社員（4.5%）で2割に達する。さらに、再就職では、正社員の割合は大きく下がり18.9%となり、パート（26.1%）、契約社員・嘱託社員（13.5%）、自営・家族従業者（11.7%）やアルバイト（7.2%）など非正規の雇用形態が主流になる。

ただ、この節を通じて、指摘をしなければいけないひとつに、数が少ないが、とくに、20代で、不明のタイプが、みられたことであろう。前述のように、若い

層における正社員経験の減少や、共通する状況を背景にもつと考えられる。この状況の解明と行方は、大変、大きな課題であるといえる。

**図表6 就業のタイプ別雇用形態**

初職継続		正社員	パート	アルバイト	契約社員 ・職員	委託社員 ・職員	人材派遣	自営業・ 家族従業者	無回答	小計
度数	117	1	2	4	2		4		130	
行%	90.0%	0.8%	1.5%	3.1%	1.5%		3.1%		100.0%	
転職継続		正社員	契約社員	嘱託社員	パート・ アルバイト	人材派遣	独立開業	その他	無回答	小計
度数	54	12	4	8	5	1	3	1	88	
行%	61.4%	13.6%	4.5%	9.1%	5.7%	1.1%	3.4%	1.1%	100.0%	
再就職		正社員	契約社員	パート	アルバイト	独立開業	個人での 仕事	経営者	自営家族	その他
度数	21	15	29	8	1	3	5	13	7	111
行%	18.9%	13.5%	26.1%	7.2%	0.9%	2.7%	4.5%	11.7%	6.3%	8.1% 100.0%

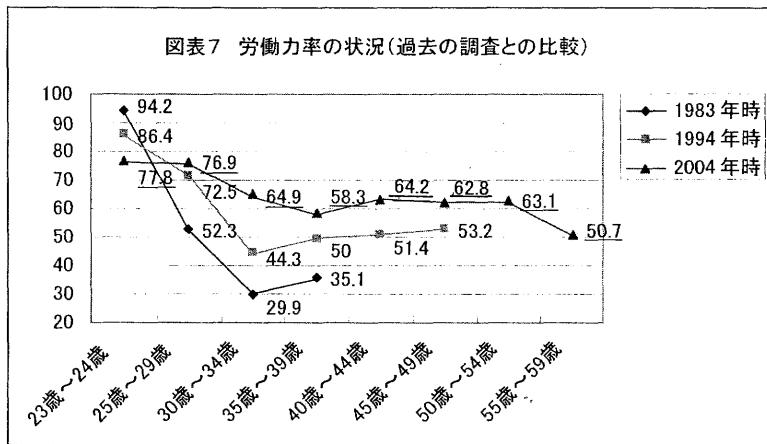
### 3. 40周年の特徴—過去の調査及び労働力調査と比較して—

#### (1) 過去の調査との比較

##### a. 全体の比較

図表7は、1983年（20周年調査）、1994年（30周年調査）と比較している。まず、30歳以上の労働力率全体が過去の調査と比較し、かなり高くなっていることがわかる。また、過去の調査では、女性労働のM字型カーブの底は、30歳から34歳まであったが、2004年（40周年調査）では、35歳から39歳にシフトし、かつ、底が高くなっている。また、40歳以上の労働力率も上昇している。そのため、全体としては、M字型カーブよりは、年齢の上昇とともに、労働力率が減少しているようみえる。

この背景には、若年層における未婚者の増加に伴う有業者の増加、また、中高年層における再就職者の増加が示唆される。後述するように、結婚・出産を経て働く方も少しづつではあるが、増加している。この状況に、これもまた、少しはあるが、影響を及ぼしているとしているといえよう。



### b. 卒業後9年から16年目の比較

まず、以上の変化をやや詳しくみるために、卒業後、9年から16年目の30代前半から半ばにかけての状況を、20周年、30周年調査とそれぞれの調査における状況を比較してみよう。

有業者の雇用形態にもこれらのこととは大きく反映している。20周年調査では、雇用者の割合が59.6%と少なく、自営（20.2%）と内職（3.4%）、その他（15.7%）が多かった。30周年調査では、雇用者の割合が、かなり増加し、76.5%に達し、自営（14.0%）、その他（6.6%）が減少していた。

40周年調査では、まず、ここに分類される回答者の雇用形態は、全員雇用者であり、自営業者やその他の雇用形態の方はいなかった。さらに、正社員、正職員の割合は71.0%、契約嘱託社員・職員が16.1%、パート・アルバイトが12.9%であり、正社員やフルタイムで働いていると想定される（契約・嘱託社員も労働時間はフルタイムに近い）がかなり増加し、パートの割合が少なくなっている。

なお、これには、配偶の状況が大きな影響を及ぼしているといえよう。

配偶の状況を20周年調査からみると、9年目の8回生でもほぼ全員が既婚であった。30周年調査では、やや、未婚者の数は増加し、18回生、19回生では、8割に達しておらず、その上の回生でもばらつきが、やや大きかった。40周年調査では、全体でも、かなり既婚者の割合は下がっており、とくに、32回生では、4割に達していなかった。

図表8 卒業後9～16年目の雇用形態（過去の調査との比較）

1983年（1～8回生）	自 営	雇 用	フルタイム	パートタイム	内 職	その他	無回答	合 計
		20.2	59.6	44.9	14.6	3.4	15.7	100.0
1994年（12～19回生）	自 営	雇 用	フルタイム	パートタイム		その他	無回答	
		14.0	76.5	57.4	19.1		6.6	2.9 100.0
2004年（23～32回生）	自 営		正社員・ 正職員	契約・嘱託 社員職員	パート・ア ルバイト	その他	無回答	
	0		71.0	16.1	12.9	0	0	100.0

#### c. 9回生から16回生の比較

9回生から16回生の雇用形態について、30周年調査では比較をしている。20周年調査のときに概ね20代だったこの方は、30周年調査では、30代に、40周年調査では、40代になっている。

まず、配偶の状況からみよう。1994年時には、15回生、16回生を除いて、ほぼ9割が既婚の状況であった。さらに10年を経て、15回生、16回生の既婚率も、回答者の方の中では、全員が既婚となっている（前章でみたように、ここまででの年齢層の既婚率が、ほぼ9割と高くなっているが、これ以下の年齢層では、違う傾向になる）。

これを背景に、フルタイムは52.8%から42.0%に減少したが、再就職の方の雇用形態であるパートやアルバイト（2人の転職継続者を除く）は29.6%と増加し、契約社員も9.9%ほどいる（これらのうち9人中8人は、再就職での雇用形態である）。自営業は、7.4%とかなり少なくなっている。

9～16回生の現在の就業状況は、初職継続（14.4%）、転職継続（9.1%）、専業主婦（37.1%）、再就職（37.9%）で、4割の方が、再就職をしている状況である。

図表9 9～16回生の雇用形態（過去の調査との比較）

1983年	自 営	雇 用	フルタイム		パートタイム	内 職	その他	無回答	合 計
	6.3	78.6	70.4		8.2	0.6	3.8	5.7	100.0
1994年	自 営	雇 用	フルタイム		パートタイム		その他	無回答	合 計
	16.4	69.2	52.8		16.4		9.6	4.8	100.0
2004年	自 営	雇 用	正社員・ 正職員	契約・嘱託 社員職員	パート・ア ルバイト		その他	無回答	合 計
	2.8	86.9	44.9	10.5	31.6		5.3	5.3	100.0

なお、出産を経て、働き続けた方は、11.4%である。

## (2) 労働力調査との比較

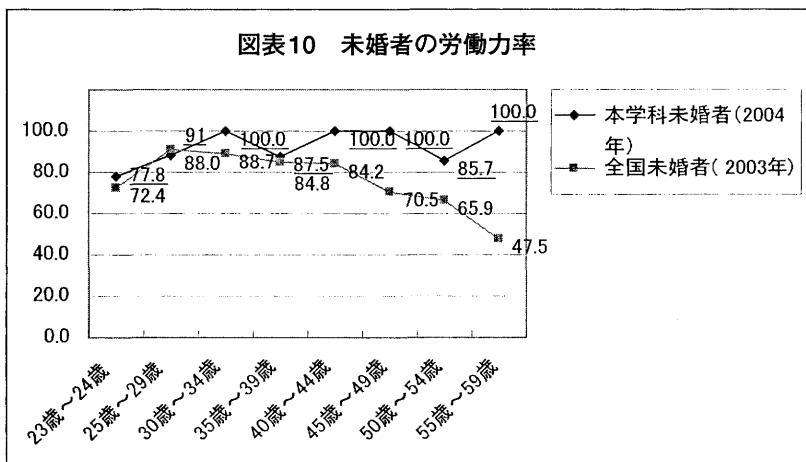
本学科卒業生の動向は全国の状況と比較してみると、どのようなことがいえるのだろうか。

### a. 配偶関係別の特徴

まず、全体の状況をみる前に、配偶関係別状況をみよう。

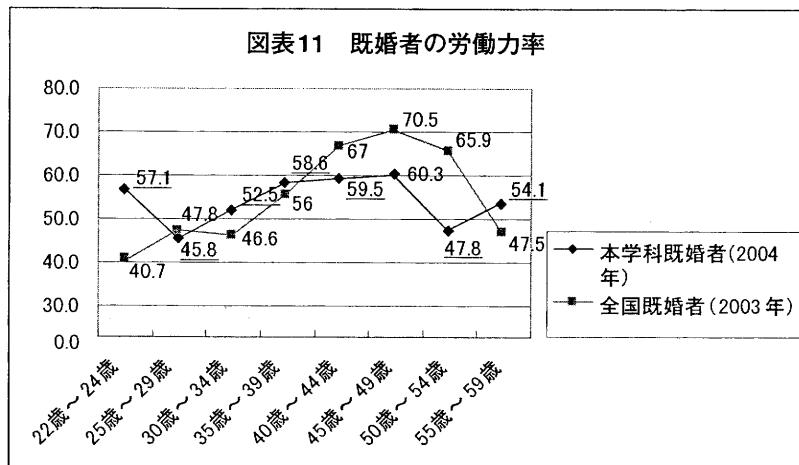
未婚者の労働率をみると、20代では、全国とほぼ同じである。それより上の年齢層については数が少ないので、年齢別に分けると、数値が安定しないが、30歳以上で、現在の就業状況が不明である方は61人中2人であり、大多数の方が働いている。全国平均と比較すると就労状況は高いといえるであろう。

内訳は、初職継続26人、転職継続20人、再就職者8人である。再就職者の8人の中には、配偶者がいても、配偶者について無回答とした方もおられる可能性もあるが、やはり離死別の方が多く占めるとと思われる。



一方、既婚者の労働率は、未婚者とは異なる動きである。20代後半では、全国と比較し、やや高いが、それ以上の階層では、おしなべて、全国平均より、低

くなっている。とくに40代での、差が10ポイント程度開いており、大きくなっている。



### b. 労働力率（合計）の比較

以上、配偶関係別の特徴をふまえ、合計の特徴をみよう。まず、30代前半では、全国平均に比較し、労働力率は高くなっている。また、M字型カーブの底が、労働力調査では、30代前半（60.3%）であるが、本学科卒業生では、やや遅れ、30代後半（58.3%）である。この背景には、20代後半で、既婚で働く方が、やや全国より多いことも少しあるが、本学科の卒業生の結婚年齢が高くなっていること、また、未婚化がすすんでいることによる一方、それ以上の年齢層では、全国平均に比べてかなり下がっている。配偶者がいない方の労働力率は高いとはいえ、多数を占める既婚者において、無職（専業主婦）が、多いためである。

後述するように、全国に比較し、結婚、出産を経て、職業を継続する方もやや多いが、既婚者の労働力率を大きく上昇させるような影響はもってはいない。

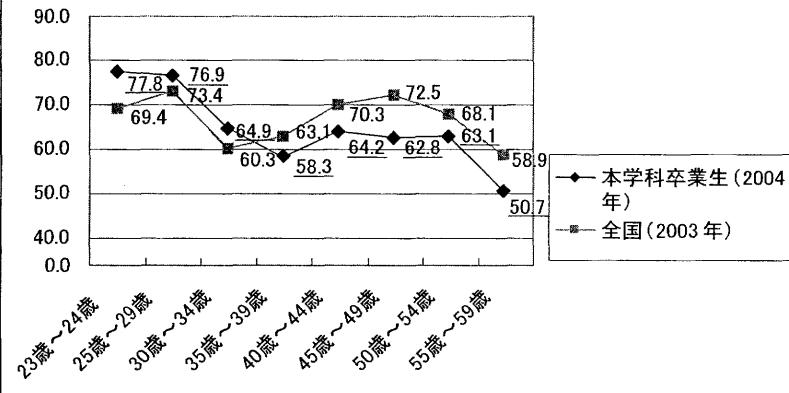
とはいえる、20周年、30周年調査と比較すると、本学科卒業生は、かなり大きく、全国の状況に近づいている。30周年調査で、最も差が開いた40代では、20ポイント（本学科・40歳前半50.0%、後半51.4%、全国・40歳前半70.3%、後半71.9%）も差が開いていたが、本調査で、最も差がある40代後半でも、本学科62.8%、全

国72.5%と10ポイントまで、縮っている。

この背景には、社会経済や産業の変化、また、本学科卒業生の女性の意識の変化などさまざまな要因があるであろう。これらに加えて、女性の高学歴者の増大による、大卒女性の一般化もあるであろう。1回生が、大学に進学された1963年の、女性の4年生大学への進学率は、ほんの3.9%であったが、現在の37回生の2000年では、31.5%になっている。

しかしながら、本学科の卒業生は、最近においても、初職においては巨大企業へ就職する方の割合が多い。雇用動向調査（厚生労働者）から、最近の状況をみると、1993年以降は、大卒女子の1000人以上の規模へ就職率は、2割から3割で推移をしている。しかし、本学科卒業生の方の、20代後半でも、58.9%が1000人以上の規模に就職をしており、さらに、1万人以上の巨大企業に就職する方が、23.0%を占めている。本学科卒業生の方の、一般の女性大卒者と比較した場合の、大きな違いは、規模の大きさである。労働力率は全国の平均に近づいてきたが、いまだに、残っている特徴はある。

図表12 全国の労働力率との比較（計）



## 4. 家庭と就労

男性の労働率は、現在も9割をほぼ超える数値である。一方、女性のM字型就労は、変化しつつあるとはいえ、依然、残っており、女性の家庭生活と就労には、大きな関連がある。本節では、本学科卒業生の家庭と就労との関係について、考察してみた。

### (1) 結婚と就労

まず、前節において、本学科卒業生の未婚の方の、初職及び転職継続率は大変高い状況はわかった。

それでは、次に、働き続けた方についてみよう。まず、結婚と就労と関係はどうのようになっているのか。既婚で子どものいない方についてみよう。とはいえる、結婚経験者で子どものない方は、さほど多くない。出産を経験した方は、30歳前半では63.8%であるが、30代後半では、72.5%となり、40代以上では、9割以上に達している。

人数が少ないので、各年齢を10年ずつ区切ってみる。30代から50代の年齢層では、それぞれ28人中16人（57.1%）、11人中9人（81.8%）、12人中9人（75.0%）と、30代を除いてかなり多い（表は略。30代の中には、出産を予定して、専業主婦の方も多いのだろう）。

また、働いている方のなかでも、初職継続、転職継続も含め、継続をしている方は、30代から50代まで、それぞれ、16人中12人、9人中7人、7人中4人とくなっている（厳密にいうと、40代の初職継続者2人と、50代の初職継続者4人は、無職のまま結婚し、その後、初職として働きだした方である）。人数が少ないため、明確にはいえないが、結婚は、30周年調査で指摘されたように、出産に比較し、継続困難な理由として、小さいということはいえるのかもしれない。

### (2) 出産と就労

次に、結婚・出産による状況をみよう。まず、結婚、出産により、離職をしないで、働きつづけている方は514人の回答者のうち、58人で全体の1割強と少ない。

30代後半9人20.8%、40代前半16人23.9%では2割程度で、40代後半8人(9.3%)、50代前半9人(13.8%)、50代後半(7.0%)では1割前後より、やや多い。30歳前半は未婚の方や出産がこれからの方も多く、割合はやや下がり、74人中9人(12.1%)であった。20代後半は2人2.6%であった。

これらの方は、58人中44人(75.6%)が初職を継続しており、残りの14人(24.1%)が転職をして継続をしている。職種は半数以上31人(53.4%)が教員(23人)か、公務員(8人)であり、とくに初職継続者では44人中28人(63.6%)が、これに相当する。

だが、年齢の高い層ほど教員と公務員の占める割合が大きい。50代後半では4人中3人、前半では異なり9人中3人と下がるが、40代では後半8人中8人(全員)、40代前半13人中10人、30代後半9人中5人となっている。一方、30歳前半8人中2人、20代後半ではゼロである。

50代から40代にかけて、結婚、出産を経て働きつづける方は、1割から2割へと増加は確認されたといってよいかもしれない。現在でも、0から3歳の子どもがいる女性のうち、35時間以上働いている就業者は1割をこえるにすぎない(総務省統計局「労働力調査詳細結果」2002年年平均)。本学科の卒業生の方が、やや、働き続けているといってもよいかもしれない、

しかし、40代から30代へかけて2割から3割への増加は確認できていない。卒業生の就職の圧倒的主流が民間企業になりつつある状況の中で、まずは、30歳前半の今後の動向が大きなポイントとなるであろう。

### (3) 無業者（専業主婦）の特徴

それでは、実は、もっとも多数派である専業主婦経験者についてみよう。まずは、経験する割合はどのようなものなのだろうか。

まず、専業主婦経験があると答えた方は、年齢の高い回生が多い。別表5より、もっとも割合が多い回生をみると、2回生では、回答者16人中15人までが、専業主婦の経験あるとしている。

年齢階層別にみると、上の年齢階層で、高くなっている。20代後半では16.7%と2割に満たないが、30代では前半で40.5%、後半で43.8%、40代では、前半55.2%と半数以上に達し、後半では、72.1%と、7割をこえる。50代前半でやや

下がるもの、後半では81.7%と、ほとんどの方が専業主婦経験をもっていることになる。

年齢の高い回生で専業主婦の経験の割合が大きくなる背景には、シングルの方が少ないと、また、前述のように、結婚、出産を経て、働き続けた方が少ないとある。とはいって、40周年調査では、過去の調査に比較し、再び働き始めた方も多い。

30周年調査では、無業者を対象に、仕事をはじめいかどうかまとめている（なお、30周年時点は無業者といえば、専業主婦であった。とくに20代でこのような分類が不可能になったことも、40周年調査の発見である）。子どもがいる方のうち、末子が0歳から2歳（72.0%）、3～6歳（70.7%）、7から12歳（71.1%）では、7割を越していたが、13～15歳（33.3%）、16歳以上（47.3%）と、下がっていた（この下がる理由として、年齢の高い方に働く気持の方が少なかったことと、また、働きたいと思った方は、子どもが13歳に達するまでには働きだしてしまったことがあるだろう）。合計では、65.3%が再就職の希望をだしていた。どの程度、実現したかは、詳細な検討が必要だが、30周年のとき、このとき回答をなさった方で、40周年調査では、再就職として、その希望を、実現された方も、いらしたと思える。

さて、40周年調査に戻り専業主婦の今後の就労希望をみると、まず、生涯にわたり職業をもつ気持がないという方は、50代後半で35.3%、前半で22.7%、40代後半で22.6%と多くなっているが、それ以下の年齢層では、かなり下がり、高くて10%をこえるが、ほぼ1割未満とわずかである。また、全体でも、18.8%にすぎない。30周年調査に比較すると、かなり多くの方が就労希望をもつようになったといえよう。

なお、40周年調査において、50代で、職業をもつ気持がないという方は、30周年調査で、16歳以上で仕事を始めたくないといっていた方たちであるかもしれない。子どもの年齢より、本人の年齢の方が、就労希望には影響をしているようである。

とはいって、「とにかくすぐに働きたい」（0.4%）は、20代後半で2名いるのみであり、また、「条件整備、仕事を選ばず」（4.2%）も少なく、余裕をもった「条件が整備し、自分にあう仕事」（57.6%）がもっと多く、30代前半（75.0%）、

30代後半（68.4%）40代前半（82.6%）となっている。なお、次節でみるが、後述するが、この余裕には、経済的な背景も関係あるといえよう。

#### (4) 配偶者の所得との関連性

最後に配偶者との関係を所得の状況からみよう。過去の調査では、配偶者については、年齢や職業についてきいている。しかし、今回の調査では、所得について伺った。夫の所得と妻の就労との関係は、今もかわらず大きな課題であると思われたからである。

別表6では配偶者のいる方に、年収を回答の中から選択し、答えていただいた結果を、回生ごとに示している。若い回生の中にも、配偶者はかなりの高い所得を回答する方もおられた。また、年齢が上昇するにつれて、ちらばりが増加しているが、全体に、かなり高い所得となっている。

このそれぞれの回答に以下の値をダミーとして、計算した結果が図表2-8と図表2-9である。（なし=0、100万円台=150、200万円台=250、300万円台=350、400万円台=450、500万円台=550、600万～799万=700、800～999万=900、1000万円以上=1200、1500万円以上=1750、2000万円以上=2000）。

年齢階層別の平均をみると、年齢とともに、上昇し、20代後半では648万であるが、30代前半では712万であり、40代後半からは1000万円以上となる。

図表13 配偶者の所得（年令階層別）

	平均値	最大値	中央値	最小値	最類値
23歳～24歳					
25歳～29歳	647.92	1200	625	100	550
30歳～34歳	712.22	1200	700	350	700
35歳～39歳	788.46	1750	700	350	700
40歳～44歳	980.56	2000	900	100	900
45歳～49歳	1027.63	2000	900	450	900
50歳～54歳	1097.17	2000	1200	250	1200
55歳～59歳	1221.77	2000	1200	100	1200
無回答	350	450	350	250	250
合計	969.01	2000	900	100	900

現在のタイプ別に就労の状況の平均をみると、専業主婦が最も高く、1000万円をこえる。次が再就職者であり、961万となる。これに、初職継続者（818万）、転職継続者（736万）と続く。

図表14 配偶者の所得（就業状況別）

	平均値	最大値	中央値	最小値	最類値
初職継続	817.69	2000	700	350	900
転職継続	736.21	1200	700	100	550
専業主婦	1083.01	2000	900	350	1200
再就職	961.22	2000	900	100	1200
不明	907.14	1200	900	250	1200
合計	969.01	2000	900	100	900

まず、前節の専業主婦の余裕をもった就労意欲は、やはり、配偶者の高所得には支えられているだろう。だが、このなかでは、配偶者の所得が、低い方が、職業を継続している傾向がみられるからといって、それを、簡単に、生計維持の必要性に求めることはできないだろう。まず、職業を継続している方の年収は、他のタイプに比較して、低いといつても、金額はかなり高い。

また、たとえば、子育てをして仕事も両立をしている方は、58人中14人とほぼ4人に1人が、職場で結婚相手がみつかったとしており、これは、両立継続者以外の11.8%よりやや多い。この場合、卒業生の方の職種のかなりが教員か公務員である。つまり、配偶者も教員か公務員であるといえよう。教員や公務員の賃金は平均的な賃金である。そのため、配偶者の職種が、両立者の賃金で、やや低いことの要因となっている可能性もある。

一方で、かなり高額な賃金の配偶者は、あまりにハードワークで、家庭のことはまったくできないかもしれない。このことも、配偶者である卒業生が仕事を継続できない大きな理由となりうる。卒業生の就労と配偶者の賃金については、年齢、過去や現在の仕事の状況、仕事に対する本人の意識、暮らしに対しての考え、内在するジェンダーの意識（性別役割分業へのこだわり）など、に加え、家族状況や地域移動も含めて、さらに、詳細な検討が必要であるといえる。

## まとめ

本学科卒業生のライフスタイルと就労の状況を、過去の調査と比較しながら、概観してきた。

家庭面をみると、結婚年齢については、高い年齢にシフトしつつも、多様化がみられる。また、結婚しない方も増加傾向にある。さらに、子どもの数も減少傾向にある。また、40代以上は、9割の方に子どもがいるが、30代では減少している。この年齢層の今後の行方が注目されるが、既婚者においても子どもをもたない方の増加は予測される。ライフスタイルの多様化は、結婚においても、子どもにおいても、進んでいるといえよう。

就労においても、結婚年齢が高くなり、未婚者が増加し、その方たちの労働力率の高さと、再就職者の増加、結婚、出産を経て、働き続ける方の増加を受け、M字型カーブも変化しつつある。全体的には、全国の動向に近づいてきている。一方、20代の回生では、無業者の方もあり、さまざまな社会問題と直面している方も多いと思われる。

本学科が40周年を迎えるということは、卒業生も、また、還暦を迎えるということである。50代の回生では、子育てが終了し、夫婦主体の家族形態になりつつある。新しいライフステージに入る卒業生の、今後の動向も注目される。

現在のところでは、本学科卒業生の就職先の企業規模は大きく、配偶者も所得が高い方も多く、変化しつつも、本学の特徴は未だあるといえる。しかし、今後は、今以上に、女性の大学卒業者が増加し、一般化していくであろう。本学の特徴も、また、変化していく可能性が大きい。

なお、本稿では、ふれることはできなかったが、卒業生の生き方は、実に多様である。管理職で1000万円以上の所得のある方もいるし、家庭と子どものことは、主に配偶者が担当し、自分はハードな仕事をしている方もいる。また、経済的にも恵まれ、趣味も多彩な専業主婦の方で自己効力感が低かったりする。

本当に、多くの方が、満足と不満を、あわせもつ。人間とはそんなものともいえるのであろうが、卒業生の多くは、未だ残る性別役割分業を中心とした「女性らしさ」への圧力と、男女共生社会の推進にみられるような「社会参画」への圧力のなか、ゆれており、やはり、女性問題と、無縁でいられない現状にあるよう

思われる。これらについては、報告書「家政経済学科40周年 記念 卒業生の仕事とくらし」で、展開することとしたい。

ご回答を寄せていただいた卒業生の皆様には、深く感謝を申し上げます、どうもありがとうございました。

別表1 結婚経験の有無と初婚の年齢の状況

回 生	婚 経 験			初 婚 の 年 齢					
	あ り	な し	合 計	結 婚 経 験 の 有 る 者					
	度 数	度 数	度 数	平均値	最大値	中央値	最小値	最類値	標準偏差
1	15		15	25.07	28	25	22	25	1.44
2	15	1	16	24.87	32	24	22	24	2.47
3	17		17	24.82	30	24	22	24	2.01
4	10		10	24.5	26	24.5	23	24	0.85
5	13		13	25.54	36	24	22	23	3.73
6	8	1	9	25.75	30	25.5	22	24	2.66
7	6		6	25	32	23	23	23	3.63
8	16	2	18	27.06	40	26	23	24	4.25
9	18	1	19	26.44	40	25.5	23	24	3.97
10	12	1	13	25.5	32	25	23	24	2.47
11	12		12	26.08	29	26	23	26	2.23
12	21	3	24	26.29	45	25	23	24	4.6
13	16	1	17	26.19	32	25.5	23	25	2.37
14	17	2	19	26	31	26	22	27	2.29
15	14		14	26.71	32	26.5	23	25	2.67
16	14		14	27.5	43	27	24	24	4.82
17	12		12	27.42	36	26	24	25	3.37
18	13	4	17	27.15	33	27	24	26	2.27
19	16	2	18	26.75	32	26	24	24	2.59
20	4	2	6	29	30	29.5	27	30	1.41
21	7	1	8	30.29	36	29	25	29	3.64
22	10		10	29.1	35	29.5	25	30	2.77
23	5	3	8	28.4	31	30	25	30	2.7
24	8	3	11	26.88	32	26.5	25	27	2.23
25	10	1	11	28.3	34	27.5	25	25	2.95
26	11	8	19	28.09	33	28	24	28	2.47
27	11	4	15	28.18	30	29	24	27	1.83
28	7	5	12	26.57	28	26	26	26	0.79
29	14	7	21	28.21	32	28.5	24	26	2.12
30	4	3	7	27	28	27	26	27	0.82
31	10	7	17	27.2	31	27	25	27	1.62
32	7	13	20	25.43	27	26	23	26	1.51
33	6	5	11	24.83	26	25	23	25	1.17
34	3	11	14	25.33	26	25	25	25	0.58
35	1	15	16	27	27	27	27	27	
36		11	11						
37		7	7						
表合計	388	126	514	26.58	45	26	22	24	3.04

別表2 子どもの有無と人数

回 生	子どもなし					子どもあり					子どもあり 平均人數	全体 平均人數	
	小計	自分 度数	親と自分 度数	自分と夫 度数	夫と親 度数	小計	1人 度数	2人 度数	3人 度数	4人 度数	合計 度数		
1						15	2	8	5		15	2.2 1.9	
2	1					15	2	9	4		16	2.1 3.2	
3	3					2	1	8	2	2	17	2.3 2.5	
4	2					2	8	6	2		10	2.3 2.0	
5	2					2	11	8	3		13	2.3 4.2	
6	1	1					8	5	3		9	2.4 1.1	
7							6	1	5			6 1.8 0.6	
8	1		1				17	4	9	4		18 2.0 2.6	
9	3	1		2			16	3	7	6		19 2.2 2.9	
10	4			1	2		1	9	7	2		13 2.2 0.8	
11							12	2	7	3		12 2.1 1.5	
12	6	1	2	3			18		11	7		24 2.4 2.3	
13	1		1				16	2	9	5		17 2.2 2.5	
14	5	1	1	2			1	14	2	7	5		19 2.2 2.2
15								14	4	7	3		14 1.9 2.3
16	2							12	3	8	1		14 1.8 1.3
17	1			1				11	4	3	4		12 2.0 1.2
18	5	1	3	1				12	4	6	1	1	17 1.9 3.8
19	2	1	1					16	7	6	3		18 1.8 3.5
20	3	1	1	1				3	2	1			6 1.3 0.4
21	3		1	1				1	5	1	3	1	8 2.0 1.3
22	2			2				8	4	2	2		10 1.8 1.3
23	5	2	1	2				3	1	2			8 1.7 0.5
24	4		3	1				7	1	3	3		11 2.3 0.8
25	4		1	3				7	3	4			11 1.6 0.7
26	11		8	3				8	4	4			19 1.5 1.0
27	7	1	3	3				8	7	1			15 1.1 0.4
28	6		4	1				6	3	3			12 1.5 1.3
29	14	4	3	7				7	7				21 1.0 0.4
30	5		3	2				2	2				7 1.0 0.1
31	16	2	5	8				1	1				17 1.0 0.1
32	18	2	11	5				2	1	1	1		20 1.5 0.2
33	9	2	2	5				2	2				11 1.0 0.1
34	13	1	10	2				1	1				14 1.0 0.1
35	15	4	11					1	1				16 1.0 0.3
36	11			11				0					11 7
37	7	2	5					0	2	1	1		7 1.8 0.4
無回答	3		2	1				4	2	1	1		
合 計	195	27	95	67	6	319	85	161	70	3	514	2.0 1.2	

別表3 家族構成

回 生	未 婚			既 婚						無回答 度 数	合 計 度 数
	小計 度数	自分 度数	親と自分 度数	小計 度数	夫婦 度数	核家族 度数	三世帯 度数	夫婦と親 度数	ひとり親 度数		
1	0			15	3	7	4		1		15
2	0			16	4	9	2		1		12
3	1		1	15	4	9		1	1	1	17
4	0			10	4	6					10
5	0			13	4	5	3	1			13
6	1	1		8	1	6	1				9
7	0			6	1	2	2		1		6
8	2	1	1	16		13	3			1	18
9	1	1		17	4	7	5	1			19
10	1		1	12	2	7	1	2			13
11	0			12		9	2		1		12
12	3	1	2	21	3	12	6				24
13	1		1	16	1	12	2	1			17
14	2	1	1	17	2	11	3	1			19
15	0			14		11	3				14
16	0			14	2	8	4				14
17	0			12	1	8	2		1		12
18	4	1	3	13	1	10	2				17
19	2	1	1	16		13	3				18
20	2	1	1	4	1	3					6
21	1			7	1	2	3	1			8
22	0			10	2	7	1				10
23	3	2	1	5	2	3					8
24	3		3	8	1	5	2				11
25	1			1	10	3	6	1			11
26	8			8	11	3	7	1			19
27	4	1	3	11	3	7	1				15
28	4		4	8	1	4	2	1			12
29	7	4	3	14	7	7					21
30	3			3	4	2	2				7
31	7	2	5	10	8	1		1			17
32	13	2	11	7	5	2					20
33	4	2	2	7	5	2					11
34	11	1	10	3	2	1					14
35	15	4	11	1			1				16
36	11			11	0						11
37	7	2	5	0							7
無回答	3	1	2	4	1	2	1				7
表合計	125	29	96	387	84	227	60	10	6	2	514

注) ひとり親には、自分の親との同居も含む

別表4 現在の就業状態

回 生	初就継続 度 数	転職継続 度 数	専業主婦 度 数	再就職 度 数	不明度数	合計度数
1		2	4	8	1	15
2	1		10	5		16
3	2	2	9	4		17
4	2	1	3	4		10
5	1	1	8	3		13
6	2	2		4	1	9
7	1	1	2	2		6
8	4	2	8	4		18
9	3	4	6	6		19
10			6	6	1	13
11	1	1	4	6		12
12	3	4	4	12	1	24
13	1	1	8	7		17
14	4	1	8	6		19
15	2		7	5		14
16	5	1	6	2		14
17	3	1	4	4		12
18	5	3	4	4	1	17
19	4	3	8	3		18
20	4	1	1			6
21	2	2	2	2		8
22	1	3	5	1		10
23	1	2	3	2		8
24	1	3	6		1	11
25	5	2	3	1		11
26	4	6	7	2		19
27	7	1	6	1		15
28	4	2	5	1		12
29	4	8	5	2	2	21
30	3	3	1			7
31	7	5	2	1	2	17
32	9	6	3	1	1	20
33	2	4	4		1	11
34	5	5	2		2	14
35	12	3			1	16
36	8				3	11
37	6					7
無回答	2	1	2	7	1	
表合計	130	88	165	111	20	514

別表5 専業主婦経験と現在専業主婦の就労希望

回 生	専業主婦経験				現役専業主婦の就労希望								
	あり 度数	なし 度数	無回答 度数	合計 度数	とにかく すぐに働 きたい 度 数	条件と整 備、自分で あう仕事 度 数	条件と整 備、仕事 選ばず 度 数	生涯にわ たり職業 持たない 度 数	その他 度 数	わから ない 度 数	無回答 度 数	小 計 度 数	
1	11	2	2	15		1			1	1	1	4	
2	15	1		16		2		6	1	1	1	10	
3	13	2	2	17		2		2	1	3	1	9	
4	8		2	10				2	1			3	
5	11		2	13		3		2			3	8	
6	6	2	1	9									
7	4		2	6		2						2	
8	12	2	4	18		5			2	1	1	8	
9	11	2	6	19		2	1	2		1		6	
10	9	1	3	13		3		3				6	
11	10	1	1	12		1		2	1			4	
12	14	3	7	24		2			1	1	1	4	
13	15	2		17		5	1	2				8	
14	13	1	5	19		5	1	2				8	
15	10		4	14		5	1	1				7	
16	8	5	1	14		4	1			1		6	
17	7	3	2	12		3			1			4	
18	10	2	5	17		3				1		4	
19	11	4	3	18		8						8	
20	1	2	3	6		1						1	
21	2	1	5	8							2	5	
22	6	1	3	10		3						3	
23	4		4	8		2				1		6	
24	6	3	2	11		5						3	
25	3	4	4	11		2			1			7	
26	9	4	6	19		7						6	
27	7	5	3	15		5				1		5	
28	6	5	1	12		2			2			5	
29	7	7	7	21		4			1			5	
30	1	3	3	7						1		1	
31	3	10	4	17						1		2	
32	4	5	11	20	1							3	
33	4	5	2	11								4	
34	2	4	8	14	1							2	
35		7	9	16								1	
36		5	6	11								2	
37		2	2	4								4	
無回答	4	1	2	7								2	
表合計	267	108	139	514	2	95	7	31	9	14	7	165	

別表6 配偶者の年収（配偶者のいる方のみ）

	なし 度数	100 万円 度数	200 万円 度数	300 万円 度数	400 万円 度数	500 万円 度数	600～ 790 万円 度数	800～ 990 万円 度数	1000 万円 度数	1500 万円 度数	2000 万円 度数	無回答 度数	小計 度数
1	1	1			2	2			4	1	1	2	14
2				1	2	1		1	6	2	1	1	15
3							1	2	6	3	3	3	15
4								1	3	2	2	1	10
5								1	5	4			13
6							1	2	3			1	8
7								2	3		1	1	5
8								1	7	3			16
9			1					1	7	1		2	17
10	2		2	1				1	1		2		12
11							2	3	4			2	11
12								5	6				21
13					1			3	4				16
14	1				1			1	5	3	1		17
15						1		3	6	2			14
16						1		2	4	3	1		14
17						1		1	5	3			11
18						1		1	5	2		1	13
19		1						1	6	1		1	16
20									3	1			4
21							1		1	3			7
22								2	3				10
23								1	2				5
24							1	2	2	2	1		8
25	1				1	1		2	3	2			10
26								4	3	3			11
27							1	2	3	2			11
28								3	4				8
29							2	1	2	1			14
30							1	4	2	1			4
31								2	2	1			10
32								2	1	1			7
33								2	1	1			7
34								2	1	2			3
35													1
36													
37													
無回答													
表合計	5	3	1	6	18	37	66	90	89	28	14	21	378

家政経済学論叢第41号

---

2005年5月20日発行

編集发行人 時子山ひろみ・日水俊夫・秋元健治

発行所 日本女子大学家政経済学会

東京都文京区目白台2-8-1

電話 03-5981-3502 (直通)

FAX 03-5981-3517 (学科共通)

印刷所 コーハン株式会社

東京都文京区春日2-18-9

電話 03-3813-4481

---